

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-3-1 医療機能の確保

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課長 知念 希和 電話番号 0852-22-5248

事務事業の名称	在宅医療の推進事業	
目的	(1) 対象	看護師、歯科衛生士及び歯科技工士
	(2) 意図	緩和ケアに精通した看護師の養成、歯科医療に従事する歯科衛生士及び歯科技工士の確保
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 在宅歯科医療連携室の設置 在宅歯科医療に関する研修会の開催 歯科医療従事者研修拠点の整備 在宅歯科医療関係者の連絡会及び協議会の開催 緩和ケアアドバイザー研修の実施（15日程度） 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	往診・訪問診療を行っている歯科医療機関数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値						
式・定義	往診・訪問診療を行っている歯科医療機関数		実績値				173.00		
			達成率						%
指標名	緩和ケアアドバイザー研修修了者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値					357.00		人
式・定義	緩和ケアアドバイザー研修修了者数	実績値	276.00	289.00	315.00	337.00			
		達成率						%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	15,760	1,726
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤H27新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 在宅歯科医療連携室を委託で設置し、相談業務や研修会（3回）を実施した。
- 歯科衛生士及び歯科技工士に対して在宅歯科医療に必要な研修会を開催した。
- 研修拠点整備に対する支援を行った。
- 緩和ケアアドバイザー研修の終了者は、過去3年（H24～26年度）で、61名増加している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 訪問歯科診療推進のために、各地区で在宅往診連携対策連絡会議や、県在宅往診連携対策協議会を開催し、関係者間の連携が促進できた。
- 訪問歯科診療すいしんのための研修拠点整備に対する支援を行い、今後、充実した研修が行われる環境が整い始めた。
- がん患者の身体的・精神的な苦痛の緩和について、基本的技術を習得した看護師数が増え、緩和ケアの提供体制の推進につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 訪問歯科診療が地域ではまだまだ展開されていない。
- がん看護の専門看護師や認定看護師の確保が困難。

②困っている状況が発生している「原因」

- 歯科医療従事者を含めて在宅医療に携わる関係者に、在宅療養者に対する歯科診療（口腔ケア）の重要性の認識が、まだ不足している。
- 在宅医療を担う他職種との連携が十分ではない。
- 各病院において、看護師を長期に研修派遣できる体制でない。

③原因を解消するための「課題」

- 歯科医療従事者だけでなく在宅医療を担う他職種を含めた関係者に、地域での在宅歯科医療の重要性についての認識を高めていただくための啓発が課題。
- 短期の派遣で緩和ケアの基礎的技術を習得できる緩和ケアアドバイザーを増やし、がん看護の専門看護師や認定看護師の不足を補うことが必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 研修会や連絡会議などを継続実施することにより、それぞれの地域での在宅歯科医療の知識を高め、課題などを関係者間で共有し連携を促進していく。
- 各病院での緩和ケアアドバイザーの有効活用等について、拠点病院看護管理者会議等で紹介し、積極的な受講勧奨を行っていただく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）